

第一鳥取丸による1月の海洋観測は実施して
いないため、広域水温分布図はありません。

水産振興課

第25回水産研究・実践活動報告会を開催します

浜の活性化に向けた活動や水産分野における自主的取り組みの輪を広げ、調査・研究の成果を県内に幅広く普及することを目的に、本報告会を以下のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

日時:令和7年2月7日(金) 13時30分から16時30分まで
場所:エキパル倉吉多目的ホール(倉吉市上井195) ※倉吉駅1階
内容:漁業者、県水産関係者等による水産分野の活動報告等

- 1 衛星画像を用いた鳥取県沿岸における藻場面積の推定(仮題)
栽培漁業センター 増殖推進室 研究員 武坂 亮
- 2 ムラサキウニ駆除活動による個体数減少効果の持続期間について
公立鳥取環境大学環境学部環境学科 学生 小原 衆人・准教授 太田 太郎
- 3 駆除だけじゃもったいない「厄介者からお宝を探せ！」
～身入りの良いムラサキウニがいる場所と時期～
鳥取県立青谷高等学校 3年生 ウニ研究グループ
鳥取県漁業協同組合本所 漁政指導部 古田 晋平
- 4 若鳥丸を用いた高大連携による海洋調査
鳥取県立境港総合技術高等学校 海洋科 2年 眞榮 大海・吉田 晴音
美保湾における人工魚礁の現状と課題
鳥取県立境港総合技術高等学校 海洋科 3年 門脇 琉晟・三好 弘起
- 5 魚食普及に向けた沿岸漁業の取組にあう
～中野港漁村～(仮題)
境港水産事務所 境港水産振興担当 水産技師 高橋 龍ノ介
- 6 潮流情報等の提供について
水産試験場 浮魚資源室 研究員 足立 惣平

担当:門脇 ☎ 0857-26-7316

境港水産事務所

令和7年初セリ式が行われました!

1月5日、境港水産物地方卸売市場の陸送上屋において、令和7年初セリ式が行われました。

式では、鳥取県漁業協同組合の景山部長と境港鮮魚仲買協同組合の島谷理事長によるあいさつ、そして水産事務所の山本所長による手締めがあり、令和7年漁期の豊漁が祈念されました。

式の後は、小型底びき網や刺網などによる沿岸ものの初セリが行われました。天候に恵まれた今年は、例年よりも水揚量が多く、セリの声で市場はにぎわいました。主な魚種は、タイ類をはじめとして、サワラ、マアジ、カワハギ、ナマコ、ワカメ等多種にわたりました。



【初セリ式の様子】



【初セリの様子】



令和6年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

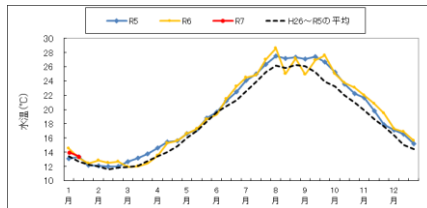
本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330



鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

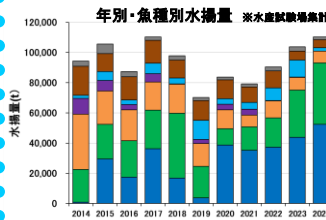
1月中旬 13.4℃
平年より 0.4℃高め



水産試験場

境漁港のまき網漁業の水揚状況(2024年)

○2024年の境漁港のまき網漁業の総水揚量は、約11万トンと過去10年間(2014年以降)で最も多くなりました。
○魚種別の水揚割合は、マイワシ(47%)とマサバ(37%)で全体の約8割を占め、ともに前年より割合が高くなりました。一方、マアジやウルメイワシなどでは割合が低下しました。

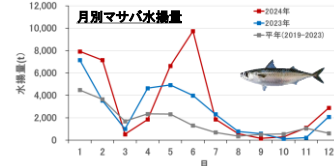
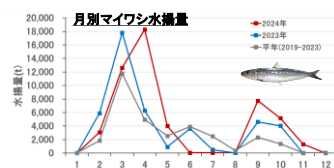


【マイワシ】

平年を大きく上回り、2000年代に入ってから最も多い水揚量となりました。春季に親魚を含む比較的大型個体、秋季に0歳魚が主体となる好調な水揚げでした。
今後の予報(2025年1月～3月)は、近年資源量が増加傾向であること、2024年の0歳魚の漁況が好調なことを勘案し、平年並みの安定した水揚げが見込まれます。

魚種	水揚量(t)	水揚割合(%)	前年比(%)	平年比(%)
マイワシ	52,325	47	120	165
マサバ	40,750	37	130	207
マアジ	7,845	7	93	71
ウルメイワシ	2,244	2	20	28
カタクチイワシ	39	0	44	2
ブリ類	5,235	5	90	50
その他	1,895	2	66	82
合計	110,323	100	106	129

2024年魚種別水揚量 ※平年:2019-2023年



【マサバ】

前年・平年を上回り、近年で最も多い2018年に次ぐ水揚量となりました。要因の一つは春季に多く水揚げされたことであり、平年の水揚げピークは1月のところ2024年は6月となりました。このような春季の好漁は、2022年以降継続しており、近年、漁場形成される時期に変化がみられています。

今後も、正確な漁獲情報の収集を継続し、データを蓄積していくことで、資源評価や漁況予報に役立てていきます。

栽培漁業センター

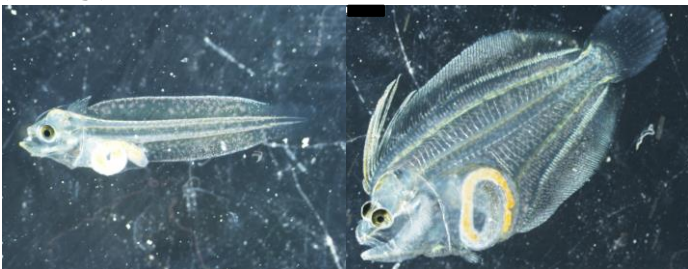
ヒラメの種苗生産始まる

令和7年度放流用・養殖用((公財)鳥取県栽培漁業協会)

この春放流予定のヒラメ種苗の生産が始まりました。他県では、近年の海水温の上昇により産卵用の親魚が斃死するなど、全国的にヒラメの種苗生産が難しい局面を迎えています。一方、鳥取県では地下水で親魚を管理しているため、高水温の問題が発生していないだけに留まらず、加温をしなくても日長の調整のみで本来春の産卵期を冬にすることに成功しています。

昨年12月にふ化した仔魚は1月中旬現在で全長1.2cm、体重0.02gになっています(右下写真)。まだ浮遊生活をしていますが、もうしばらくすると着底生活に移行します。この時期の成長はとても速く、順調にいけば4月には全長は8cm～10cm程度になり、体重も6g～12g(3か月で500倍!)にもなります。

昨年は2月に原因不明の斃死があり、放流時期が遅れてしまいましたが、今年はそうならないよう栽培漁業センターも注意深く対応する予定です。



ふ化後約2週間 眼は両側に位置しており、他の魚との区別は難しい。

ふ化後約4週間 眼の移動が始まり、ヒラメらしくなってくる。

潮に夢を 共和水産株式会社
代表取締役 橋津 寛
〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530